

# 心豊かでたくましい児童生徒を 育む小中一貫教育をめざして

～ 三戸町におけるこれからの義務教育創造 ～

## — 報 告 書 —

平成19年3月26日

三戸町立小・中学校の義務教育振興に関する検討会議

# 目 次

はじめに	1
1 三戸町立小・中学校の適正配置と施設・設備の整備について	2
(1) 今後の児童生徒数の動向と施設・設備等の課題	2
(2) 今後の小・中学校の適正配置と施設・設備の整備	2
① 三戸北小学校の改築整備について	2
② 三戸中学校の改築整備について	3
③ 複合施設の整備について	3
2 三戸町立小・中学校の義務教育振興策としての小中一貫教育学校の導入 について	4
(1) 三戸町の児童生徒の現状と課題	4
(2) 国の動向と先進実践校の取組	5
(3) 三戸町の義務教育振興策の在り方	6
① 小中一貫教育学校の導入について	6
② 基本的な進め方と配慮事項について	6
むすびに	7

## 【資料】

諮問書	8
三戸町立小・中学校の義務教育振興に関する検討会議委員名簿	11
三戸町立小・中学校の義務教育振興に関する検討会議審議経過	11
三戸町立小・中学校の義務教育振興に関する検討会議設置要綱	12

## 【関係資料】

別冊

## はじめに

今日、教育は子どもたちの豊かな心を育み、確かな学力を身につけることをはじめ、深刻化するいじめや不登校などの問題に対処することなど、様々な課題に直面しています。また、教育を取り巻く環境も、歯止めのかからない少子化の進行、家庭や地域の教育力の低下など、大きな変化の中にあります。

国においては、教育改革を重要な施策と位置づけ、首相直属の機関である教育再生会議をスタートさせ論議を深めているところでもあります。また、中央教育審議会等においては新しい義務教育の姿として、市区町村、学校の権限と責任を拡大する分権改革、小学校と中学校の連携・接続を円滑化することを提唱するなど積極的な取組を行ってきています。

本検討会議は、平成18年10月6日に貴職から「三戸町立小・中学校の適正配置と施設・設備整備について」「三戸町立小・中学校の義務教育振興策としての小中一貫教育学校の導入について」の諮問を受け、先に述べた背景等を踏まえて、これまで4回にわたって審議を進めてきました。諮問事項は二つの柱からなるものですが、後者の「小中一貫教育学校の導入について」は、戦後の日本の教育を根底において支えてきた義務教育6-3制に係るものだけに、大きな課題でありました。しかしながら、少子化が今後も進行していく中で、単に教育環境の規模を縮小していくという考えに立つのではなく、将来の三戸町の子どもたちにどのような教育環境を創造していけばよいのかという前向きな考えを大切にしていきました。

検討会議委員は、三戸町の学校関係者、PTA、社会教育関係者、自営業の方々など広汎な方々から成るもので、毎回熱心な審議を進めてきました。委員に共通する思いは、今後の三戸町の子どもたちの健やかな成長と三戸町の教育の進展を願うことでありました。

この度、次のとおりの結論が得られましたので、これを報告書として取りまとめました。三戸町教育委員会におかれましては、義務教育の振興を進めていくためにも、本報告書の趣旨を生かし具体的な施策の推進を図られることを期待するものであります。

## 1 三戸町立小・中学校の適正配置と施設・設備の整備について

### (1) 今後の児童生徒数の動向と施設・設備等の課題

全国的に見られる少子化の進行は三戸町においても例外ではなく、児童生徒数は急激に減少してきており、今後も減少していくものと考えられます。

近年の三戸町の児童生徒数の推移を見ると、平成10年度に小学生は846人であったものが、平成18年度では643人となり、約24%実に4分の1近くの減少となっており、さらに6年後の平成24年度では520人、約20%の減少と推計されています。また、中学生においても、平成10年度に456人であったものが平成18年度には387人で約15%の減少となり、平成24年度には295人、約24%の減少と推計されています。

このような児童生徒数の減少は、学校において円滑な教育活動を行うための適正規模を維持する上で影響があり、特に小規模校においては深刻なものがあります。

次に、三戸町立小・中学校の施設・設備を見ると、小・中学校6校中、斗川小学校、三戸小学校、杉沢小・中学校は建築後の経過年数が22年未満で施設・設備や耐震基準面で比較的問題は少ないのでありますが、三戸北小学校においては施設の老朽化が目立ち、特別教室の不足に伴う増築や耐震基準に照らした早急な耐震診断が求められており、三戸中学校においても施設老朽化により実施した耐力度調査の結果から早急な改築が必要とされています。

また、学校の施設・設備の整備とともに、第3次三戸町総合振興計画や三戸町長期社会教育計画の施策として掲げられ、町民の多くの方々から期待されている多様な発表や舞台公演等が鑑賞できる「文化会館（仮称）」、そして生涯スポーツ推進の観点から「屋内温水プール」等の複合的施設の整備が併せて求められています。

### (2) 今後の小・中学校の適正配置と施設・設備の整備

これまで述べてきた諸課題を踏まえて、次のように考えていく必要があります。

#### ① 三戸北小学校の改築整備について

三戸北小学校については、入学児童数が漸減してきていることから、複式学級が恒

常化することが予想されます。また、今後も児童数の減少に歯止めがかからないことからくる学習や部活動の効率性、さらには校舎の老朽化、立地環境、耐震問題等を考慮する時、改築は行わず三戸小学校に早期に統合することが望ましいと考えます。

なお、統合に当たっては、学区住民の意見を十分聴き、理解を求める努力をするとともに、児童の登下校の負担を可能な限り軽減していく必要があります。

## ② 三戸中学校の改築整備について

三戸中学校については、校舎の老朽化、耐震問題等から全面改築が必要と考えます。しかし、現在地での改築は立地環境等から教育活動の制約など相当の困難が予想されます。このため、小中一貫教育の導入について大方の理解が得られた場合においては、三戸中学校を現在の三戸小学校に併設する形で移転改築を検討することが望ましいと考えます。

なお、移転改築に当たっては、学区住民の意見を十分聴き、理解を求める努力をするとともに、多くの小・中学生が登下校し生活することになることから、交通環境の整備にも意を用いていく必要があります。

## ③ 複合施設の整備について

三戸中学校の移転改築に際しては、第3次三戸町総合振興計画や三戸町長期社会教育計画に位置づけられ町民から強い整備要望のある「文化会館（仮称）」、「屋内温水プール」を併設する複合的校舎としての建設を検討されることが望ましいと考えます。

また、移転改築に伴って屋外運動場を兼ねる陸上競技場の整備を検討していく必要があります。

このことは、三戸町全体にとっても学校教育はじめ社会教育の推進、生涯体育等の活性化を図るうえで望ましいことであります。

なお、これらの複合施設は児童生徒の教育活動とともに町民の諸活動に供されることから、それぞれにおいて円滑な使用がなされるよう適切な運営、管理に意を用いていく必要があります。

## 2 三戸町立小・中学校の義務教育振興策としての小中一貫教育学校の導入について

### (1) 三戸町の児童生徒の現状と課題

全国において、児童生徒の問題行動は依然高い水準で推移しているといっても過言ではありません。校内暴力等粗暴行為は、平成9年度から中学生を中心に急激に増え、平成12年度をピークに横ばいで推移しています。不登校についても、中学生を中心に増加に歯止めがかかっていません。一方、いじめについては平成7年度以降減少傾向にあります。しかし、中学生の減少率は小さくなっています。しかし、昨年後半から全国的にいじめをめぐる深刻な状況が頻発したことから、今後増加することも予想されます。

三戸町の児童生徒の状況を見ると、学校内における暴力行為は小学校ではほとんど見られなく、中学校においても平成12年度の19件をピークに減少しています。いじめについては、小・中学校合計で平成11年度の21件をピークに減少しています。しかし、過去において中学校では校内暴力やいじめが頻発し学校の秩序を維持する上で困難を極めたこともあり、このことを念頭においた対応が求められています。

不登校については、小・中学校で平成13年度以降減少してきていますが、平成17年度から増加傾向にあります。小学校に比べて中学校に多く、特に中学3年生が目立っています。出身校別では小規模校出身生徒が比較的多いという状況です。

学力について見ると、平成17・18年度に実施した標準学力検査（NRT）で三戸町の児童生徒はおおむね全国平均を上回っているが、算数・数学や英語、社会の一部教科で全国平均を下回る学年が見られます。小学生と中学生を比べると、小学生は良好であるのに中学生で落ち込む傾向があり、学力を継続して向上させていくことが今後の課題となります。

このような傾向は、全国的に実施されている様々な調査においても顕著に見られます。例えば、小学生と中学生の間には、学習への意識と取り組み方においても、教科や活動の時間の好き嫌いにおいても、そして楽しみにしていた教科と不安に思っていた教科においても、それぞれにかなりの差が見られます。

このようなことが生じる背景には、小学校における学級担任制と中学校における教科担任制という教育システムの違い、中学校では新しい教科が増え学習内容が難しくなること、心身の成長による発達上のこと、高校進学等の進路をめぐる問題など様々なことが考えられます。

すなわち、子どもたちが小学校から中学校に進む際、学習や学校生活に不安を感じ

それが学習上のつまずきや適応上の問題につながることもあると考えられます。

このため、小学校から中学校へ進む発達段階で、小学校と中学校の段差を少なくし、その接続を可能な限り円滑にし、望ましい人格形成を図ることが必要です。

## (2) 国の動向と先進実践校の取組

国の中央教育審議会では「新しい時代の義務教育を創造する」と題して、現行の小学校と中学校の接続の在り方を見直し、9年間を一貫した新しい教育課程による義務教育学校の検討を提言しています。

これを受けて、全国の一部自治体では小中一貫した新しい教育システムによる小中一貫教育学校の開設や実践の取組で義務教育の振興を図っているところが増えていきます。ただ、このような学校を設置するためには、現行の学校教育法にはこの定めがないことから、現在では国から「小中一貫教育研究開発校」か「構造改革特別区域研究開発校」のいずれかの認定を受ける必要があります。ちなみに、平成17年度において全国では15都道府県が前者の認定、17市区町が後者の認定を受けて取組を進めていますが、平成18年度では、それが16都道府県、50以上の市区町村へとそれぞれ取組が拡大している状況にあります。

これらの取組では、現行学習指導要領を基準としながらも、9年間を一貫して見通した新たな教育課程を編成し、児童生徒の発達段階に応じた生活指導を行う他、現行の小学校高学年段階から教科担任制を行ったり、より専門的な立場から教科指導を行うなど、これまでの小学校と中学校との高い垣根を平坦なものにし、学習や生活が円滑にできるなどの利点が報告されています。

具体的には、基礎的・基本的な学習内容の定着のための授業時数の弾力化、地域の課題や生き方を学ぶ新しい教科の設定、低学年からの英語学習の取り入れなど多様な学習内容や方法が採用されています。また、9年間一貫して見通しながら、児童生徒の発達段階に配慮した、例えば、前期4年・中期3年・後期2年の括りを取り入れる工夫等も見られます。

実践成果報告に共通するのは、学力の定着・向上、不登校の減少、異年齢交流による社会性の伸長などがあります。もちろん課題もあり、教員の指導力の問題やこれまでの校種の違いからくる教員の意思の疎通など、克服されなければならないことは少なくないと思われます。

実践校の取組はまだ十分な時間を経っていないので、今後の取組から成果や課題を見極めていく必要があります。

### (3) 三戸町の義務教育振興策の在り方

これまで、三戸町の小・中学校の施設・設備の現状を踏まえて、早急な整備が必要であることを述べてきました。また、三戸町の児童生徒の現状と教育上の課題を、生活指導面、学習指導や学力向上面、そして家庭生活等の様々な面から検討してきました。さらに、国の教育行政の動向に基づいた全国の先進的な小中一貫教育学校の取組やその成果と課題等の情報について可能な精査をしてきました。

これらを踏まえて、小・中学校の施設・設備の整備の機をとらえて、三戸町の義務教育の将来的な在り方について、次のように推進していくことが望ましいと考えます。

#### ① 小中一貫教育学校の導入について

三戸町において、小中一貫教育学校を導入する方向で検討していくことが望ましいと考えます。その際、三戸町の地域や児童生徒の実状に即した、三戸町にふさわしいものとなるよう工夫していく必要があります。

この場合の小中一貫教育学校は、児童生徒数の動向等を踏まえ、当分の間、これまでの三戸小学校、三戸北小学校、斗川小学校、三戸中学校を含む三戸地区小中一貫教育学校と杉沢小学校と杉沢中学校を含む杉沢地区小中一貫教育学校の2校体制をとることが望ましいと考えます。

なお、将来的には、今後の児童生徒数の動向を見ながら、三戸町を一つの学区とした小中一貫教育学校の1校体制をも視野に入れて考えていく必要があります。

#### ② 具体的な進め方と配慮事項について

ア 全国の先進的な小中一貫教育学校の取組事例の情報をさらに収集し、役立てていく必要があります。

イ 指導内容やカリキュラムの検討に際しては、教育関係者や専門家の意見を聴きながら進めていく必要があります。その際、児童生徒の発達段階、特に自我や心身の発達を大切に考えていく必要があります。

ウ 小中一貫教育学校は、教職員一人一人の積極的な取組によって成果が得られるものであります。このため教職員の指導力の向上はもちろんのこと意欲的に取り組めるよう工夫していく必要があると考えます。

エ 学校は、地域の教育、文化の拠点で地域の人々に育てられてきたことから、新しい制度の導入や学区の変更等については、地域の方々の意見を十分聴きながら進めていく必要があります。



## む す び に

本報告書は、今後の三戸町立小・中学校の義務教育振興に関する将来展望を述べています。

現在の三戸町の小・中学校の学校施設・設備及び学校配置は、老朽化や耐震化への対応、少子化等に伴う教育効果などを踏まえて、早急な整備と見直しが必要であります。そして、このような背景や機をとらえて三戸町の中長期的な義務教育の振興を考えると、子どもたちの望ましい人格形成を図るために、そして一人一人の子どもたちの学力の向上を進めるためにも、小学校から中学校への接続をできるだけ円滑にしていくことが大切であると考えます。その方策として、小中一貫教育学校の導入を進めることは時宜にかなうことであると考える。

ただ、この小中一貫教育学校は全国の一部自治体で実施されてきているとはいえ、おそらく本県では先駆的な試みとなるものであります。また、この小中一貫教育学校は、これまでわが国の義務教育の根幹を支えてきた6-3制に係るものでありますことから、町当局はもちろんのこと、町民の方々の十分な理解と支援がなければ成果を得ることができません。

さらに、今後具体的に進めていく上で様々な課題も想定されます。このため、関係機関とりわけ青森県教育委員会等の支援を期待するものであります。

比較的短い期間での諮問事項に対するまとめの報告となりましたが、検討会議委員全てが熱心に協議しまとめたものであります。この報告の趣旨を踏まえて施策の推進が図られ、三戸町の心豊かでたくましい子どもたちの育成につながることを切に願うものであります。

三戸町立小・中学校の義務教育振興に関する検討会議

**議長 佐藤 正 昭**

## 【 資 料 】

三教学第 889 号

平成18年10月6日

三戸町立小・中学校の義務教育振興に関する検討会議議長 殿

三戸町教育委員会

教育長 丹 新 也

### 諮 問 書

このことについて、下記により諮問いたします。

### 記

#### 1 諮問事項

三戸町立小・中学校の校舎老朽化に伴う改築課題や児童生徒の減少による学習指導上の課題解決のため学校の適正配置や学校間連携・接続等義務教育振興策の在り方について。

(1) 三戸町立小・中学校の適正配置と施設・設備整備について

(2) 三戸町立小・中学校の義務教育振興策としての小中一貫教育学校の導入について

#### 2 諮問事項の説明

別紙のとおり。

(諮問事項の説明)

現在の三戸町は、昭和30年に旧三戸町、留崎村、斗川村、猿辺村の4町村が町村合併し誕生したものである。合併当時の三戸町には、小・中学校が17校設置されていたが、そのうち大規模校が三戸小学校と三戸中学校の2校で、両校以外の15校は僻地校9校を含む小規模校であった。

三戸町では地域のこのような義務教育環境を踏まえ、将来の教育の方向性について検討し、昭和33年に三戸町の教育目標として

①学力の向上 ②社会性の育成 ③創造性の啓発 ④健康教育の徹底

を掲げた。爾来、「教育のまちづくり」を合い言葉に、学校教育、社会教育及び家庭教育や行財政面における施策に反映させて教育の振興を図ってきたところである。

しかし、時代の流れの中で、全国的に急激な少子・高齢化が進行し、三戸町においても例に漏れず近年児童生徒数が急激に減少し、学校としての適正規模が維持できなくなり学校統廃合の繰り返しによって平成元年度には、小学校8校、中学校3校と11校に減少し、さらに現在では小学校4校、中学校2校の6校となり、中規模校の三戸小学校、三戸中学校以外の4校は小規模校という状況にある。そのうち小中併設複式校が1校（僻地校）であり、平成16年度に蛇沼小学校を統合した三戸北小学校では今年度から複式学級が編成されるような状況となっている。また、他の小規模校においても、現在のところ複式学級編成にまでには至っていないが、男女のバランスを大きく欠いた学級ができたり、子どもたちの興味・関心の強いクラブ活動が制限されるなど、教育上問題となっている。

施設面について見た場合、三戸北小学校は昭和43年度に建設され、三戸中学校は昭和49年度に建設された建物で老朽化や耐震強度が心配されており、さらには設備面においても現在の教育にそぐわない面も見られ、改築に向けた取組が重要な課題となっている。

一方、学校教育においては、これからの社会においては、グローバルな社会の中において自ら考え、自ら学び、判断し、行動できる実践力を備えた社会人の育成を求められていることから、子どもたちに「確かな学力」としての基礎的基本的な知識・技能と思考力、創造力を育むと共に「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育成す

ることが重要であり、現在6－3－3制の教育制度の中でこうした教育が実践されている。しかし、いじめや暴力行為、不登校など問題行動が全国的にかなりの数にのぼり、特に中学校1年生で多発しており、本町の中学校においても毎年新たな不登校生徒がでることから義務教育を中心とする学校間の連携・接続の在り方が大きな課題となっている。特に現在の小学校と中学校との区切りの時期が子どもの心理的・身体的な発達や行動上の指導にアンバランスをもたらしていることが指摘され、小中一貫教育をととしたカリキュラムの区分の弾力化や学校種間の連携・接続を改善することの重要性も指摘されているところである。

以上のようなことから、

- (1) 三戸町立小・中学校の適正配置と施設・設備整備について
- (2) 三戸町立小・中学校の義務教育振興策としての小中一貫教育学校の導入について

次の点も含めてご検討をお願いいたします。

- ・ 三戸北小学校を三戸小学校へ統合することについて
- ・ 小中一貫教育学校として三戸中学校を移転新築することについて
- ・ 複合施設として周年利用できる水泳プールや講堂（ホール）の建設について
- ・ 将来的に三戸町の義務教育校は小中一貫教育学校2校体制にすることについて

【 資 料 】

三戸町立小・中学校の義務教育振興に関する検討会議委員名簿（五十音順 敬称略）

議 長	佐 藤 正 昭	青森公立大学 副学長
副 議 長	大 矢 昭 哉	三戸町選挙管理委員会 委員長
委 員	石 橋 啓 逸	青森県立三戸高等学 校長
委 員	宇 藤 功	(株)ウトウ 代表取締役社長
委 員	梅 田 晃	三戸小P T A 会長
委 員	奥 山 忠	三戸町体育協会 会長
委 員	川 村 亨	三戸紫苑幼稚園 園長
委 員	北 向 敦	三戸町連合P T A 会長
委 員	坂 本 昇	三戸北小P T A 会長
委 員	千 葉 慮 康	杉沢小中学校 校長
委 員	寺 尾 みちる	児童民生委員
委 員	原 寿	三戸地方教育研究所 指導主事
委 員	藤 井 昭 人	三戸中学校 校長（平成18年12月死去）
委 員	藤 村 立 夫	三戸町教育振興協議会 会長
委 員	松 本 弘	三戸小学校 校長
委 員	村 井 房 人	三戸中P T A 会長

【 資 料 】

三戸町立小・中学校の義務教育振興に関する検討会議審議経過

第 1 回	平成18年10月 6日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委嘱状の交付</li> <li>・ 議長及び副議長の選出</li> <li>・ 検討会設置要綱について</li> <li>・ 諮問及び諮問事項の説明</li> </ul>
第 2 回	平成18年11月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町立小中学校の適正配置と施設設備について</li> <li>・ 義務教育振興策としての小中一貫教育学の導入について</li> </ul>
第 3 回	平成19年 1月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間のまとめ</li> </ul>
報告書起草委員会	平成19年 2月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報告書案の作成</li> </ul>
第 4 回	平成19年 3月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三戸町義務教育振興の在り方</li> <li>・ 報告書案審議</li> <li>・ 教育長への報告</li> </ul>

## 【 資 料 】

### 三戸町立小・中学校の義務教育振興に関する検討会議設置要綱

(設置)

第1条 三戸町立小・中学校（以下「小・中学校」という。）の校舎老朽化に伴う改築課題や児童生徒の減少による学習指導上の課題解決のため学校の適正配置や学校間連携・接続の在り方等について総合的な検討を行うため、三戸町立小・中学校の義務教育振興に関する検討会議（以下「検討会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 検討会議は、三戸町教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が諮問する次の事項について審議し、教育長に報告する。

(1) 小・中学校の適正配置と施設整備に関すること。

(2) 小・中学校の義務教育振興策に関すること。

(組織)

第3条 検討会議の委員は、20人以内の委員で組織する。

2 委員は、町内の教育機関、教育関係団体及び学識経験者のうちから教育長が委嘱する。

(任期)

第4条 検討会議の委員の任期は、委嘱の日から平成19年3月31日までとする。

(議長及び副議長)

第5条 検討会議に議長及び副議長各1人を置く。

2 議長及び副議長は、委員の互選による。

3 議長は、会議を主宰する。

3 副議長は、議長を補佐し、議長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 検討会議は、教育長が招集する。

2 検討会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 検討会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決すところによる。

(関係者の出席)

第7条 教育長は、必要に応じて委員以外の者を検討会議に出席させることができる。

(庶務)

第8条 検討会議の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

(その他)

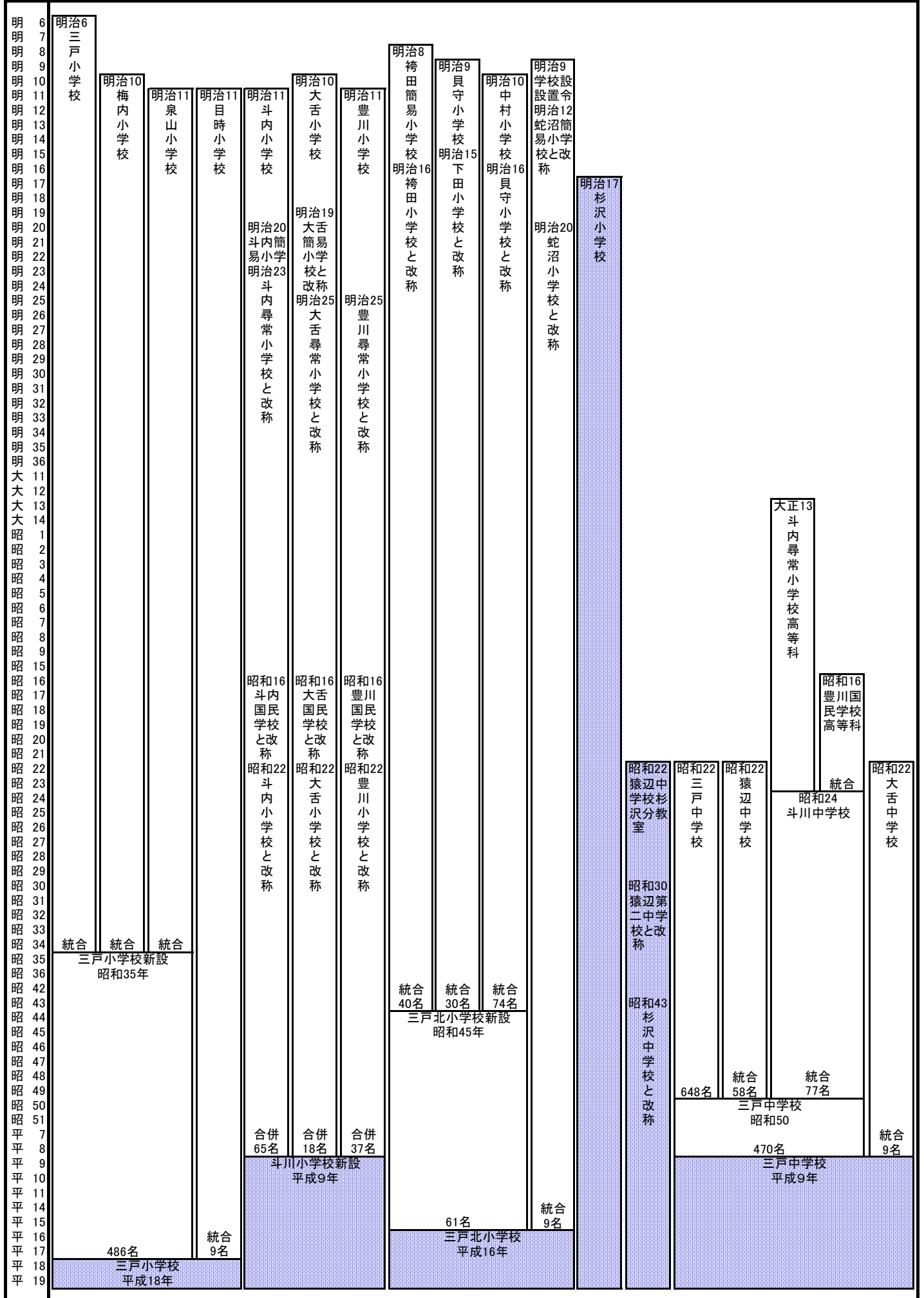
第9条 この要綱に定めるもののほか、検討会議の運営に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則（この要綱は、平成18年9月1日から施行する。）

## 【関係資料】

○三戸町小学校・中学校の変遷	・ ・ 13
○三戸町立小中学校の施設現況	・ ・ 14
○三戸町小学校別の児童数の推移と将来の推計	・ ・ 15
○三戸町中学校別の生徒数の推移と将来の推計	・ ・ 16
○三戸町立小学校年度別児童数・学級数の推計（平成18～24年度）	・ ・ 17
○三戸町立中学校年度別生徒数・学級数の推計（平成18～24年度）	・ ・ 18
○学校内における暴力行為発生件数の推移（公立小・中・高）	・ ・ 19
○いじめの発生件数の推移（公立小・中・高・特殊）	・ ・ 19
○三戸町立小中学校における問題行動の件数	・ ・ 20
○国・公・私立不登校指導生徒の推移	・ ・ 21
○三戸町小中学校における不登校児童生徒の推移	・ ・ 21
○三戸中学校における学年別不登校生徒の推移	・ ・ 22
○三戸中学校における出身校別不登校生徒の推移	・ ・ 22
○三戸町小中学校児童生徒のNRT（標準学力検査）の状況	・ ・ 23
○小中学生の学習への意識と取り組み方	・ ・ 24
○教科や活動の時間の好き嫌い	・ ・ 25
○学校の楽しさ（学校段階別：全国）	・ ・ 26
○学校の楽しさ（学年別：全国）	・ ・ 26

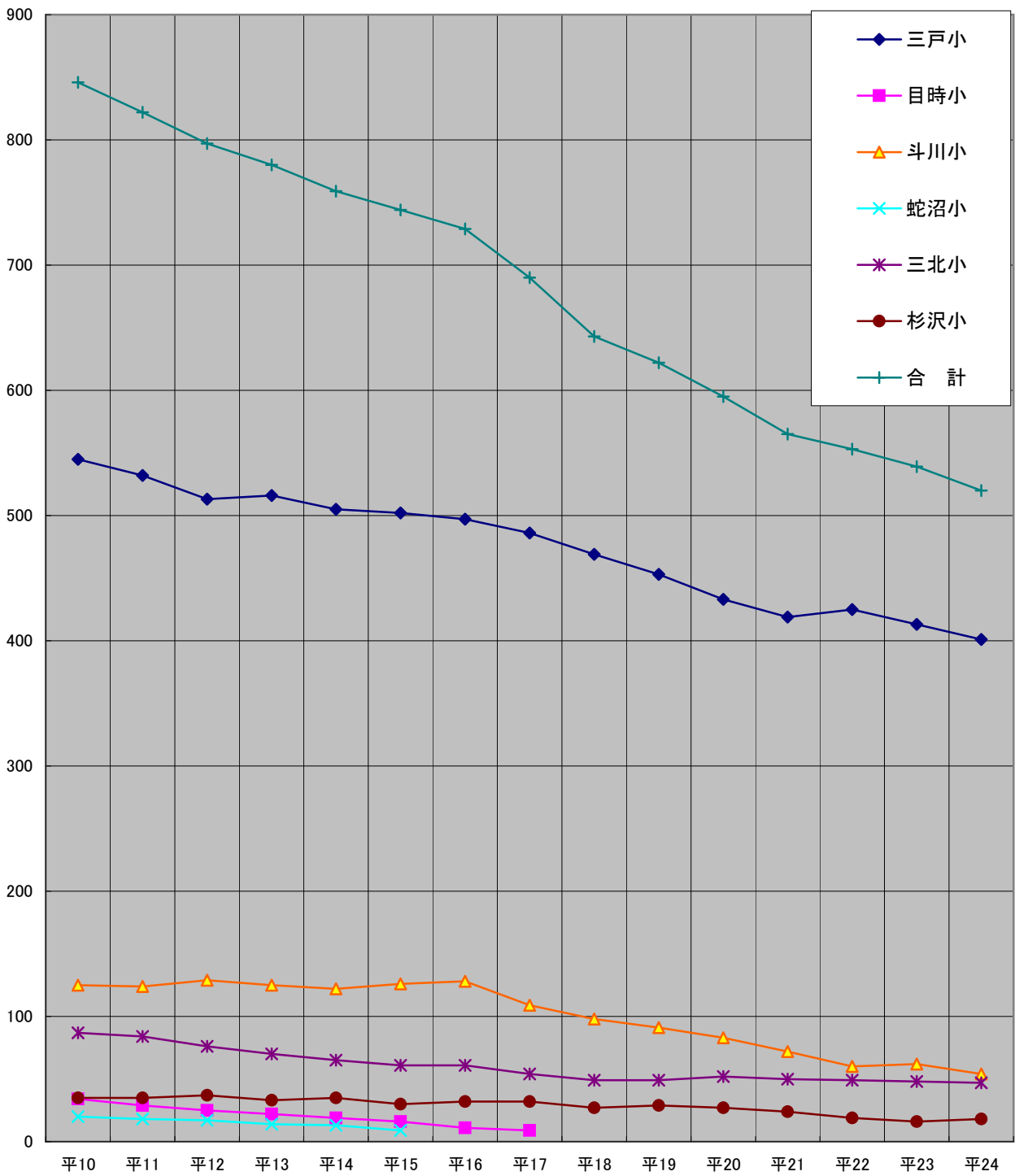
# 三戸町の小学校・中学校の変遷





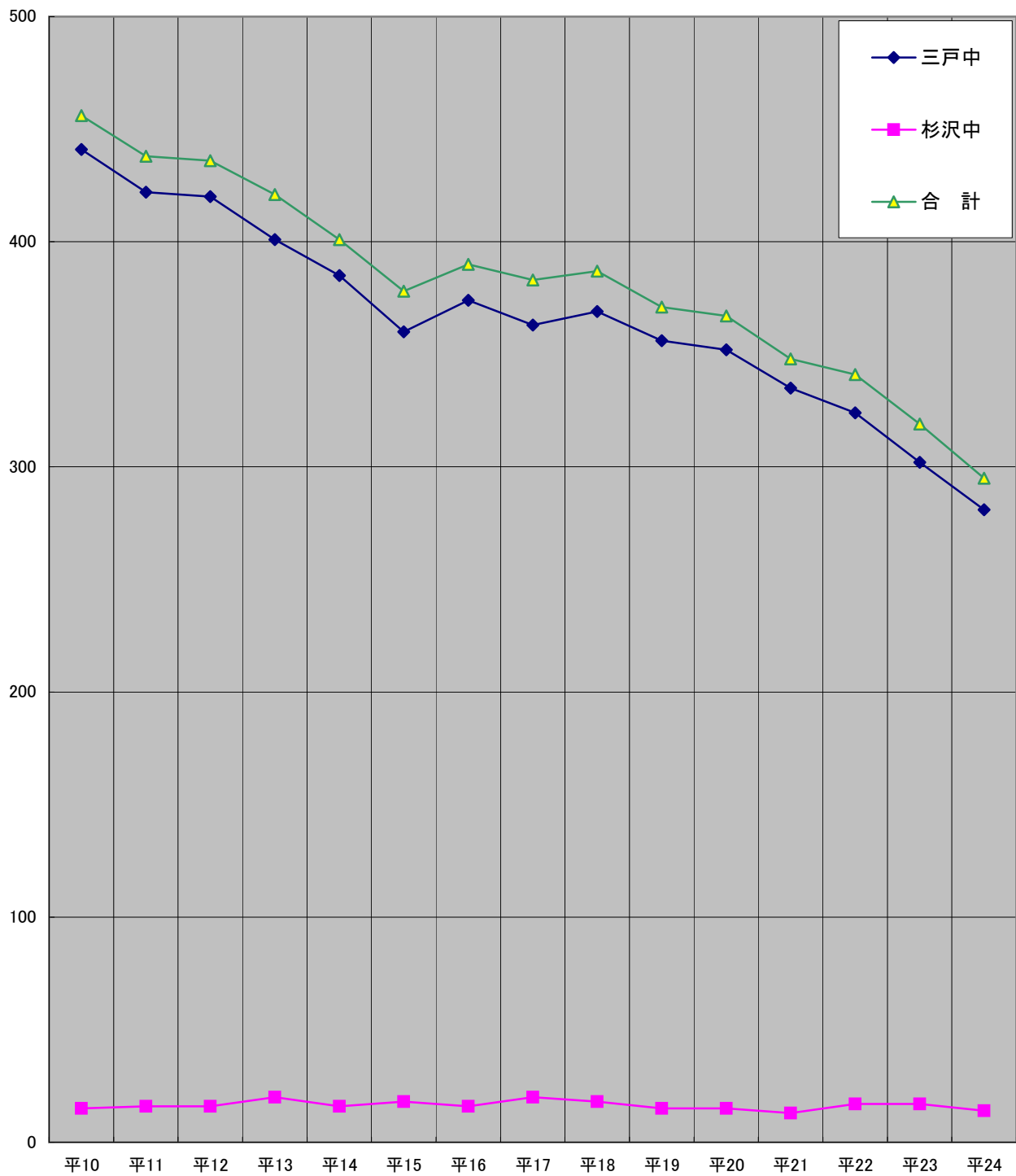


## 三戸町立小学校別の児童数の推移と将来の推計



	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20	平21	平22	平23	平24
三戸小	545	532	513	516	505	502	497	486	469	453	433	419	425	413	401
目時小	34	29	25	22	19	16	11	9							
斗川小	125	124	129	125	122	126	128	109	98	91	83	72	60	62	54
蛇沼小	20	18	17	14	13	9									
三北小	87	84	76	70	65	61	61	54	49	49	52	50	49	48	47
杉沢小	35	35	37	33	35	30	32	32	27	29	27	24	19	16	18
合計	846	822	797	780	759	744	729	690	643	622	595	565	553	539	520

## 三戸町立中学校別の生徒数の推移と将来の推計



	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20	平21	平22	平23	平24
三戸中	441	422	420	401	385	360	374	363	369	356	352	335	324	302	281
杉沢中	15	16	16	20	16	18	16	20	18	15	15	13	17	17	14
合計	456	438	436	421	401	378	390	383	387	371	367	348	341	319	295

## 三戸町立小学校年度別児童数・学級数の推計(平成18～24年度)

出生児童数 = 入学児童数						
出生年月日	出生児童数	三戸小学校区	斗川小学校区	杉沢小学校区	三北小学校区	入学年度
H12.4.2～13.4.1	89	64	12	5	8	19
H13.4.2～14.4.1	94	68	10	4	12	20
H14.4.2～15.4.1	87	68	11	1	7	21
H15.4.2～16.4.1	91	76	7	2	6	22
H16.4.2～17.4.1	85	67	8	3	7	23
H17.4.2～18.4.1	74	58	6	3	7	24

※H18/5/1住民基本台帳より

### 年度別 児童数・学級数

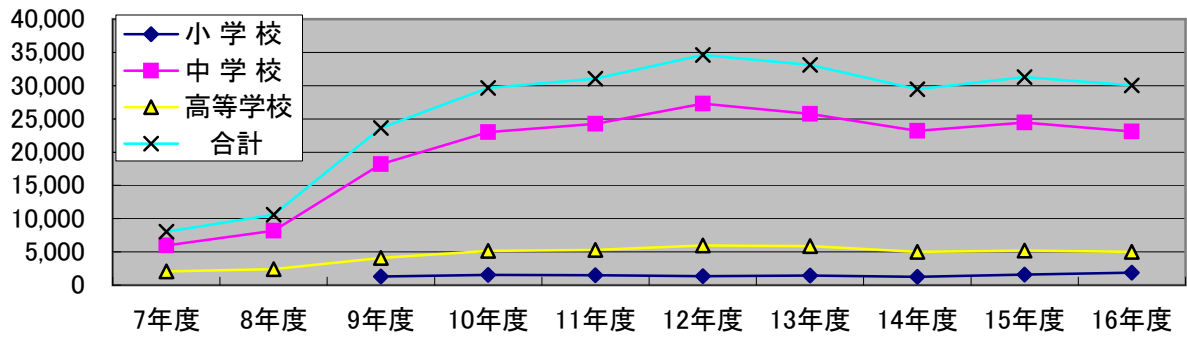
	学年	児童数(特殊学級込み)					学級数(特殊学級抜き)			
		三戸小	斗川小	杉沢小	三北小	学年計	三戸小(特殊抜)	斗川小	杉沢小	三北小
<b>18年度</b>	1年	70	14	1	8	93	3	1		1
	2年	79	6	6	8	99	3	1		1
	3年	70	19	7	7	103	2	1		1
	4年	82	22	4	9	117	3	1	1	1
	5年	88	18	6	9	121	3	1	1	1
	6年	80	19	3	8	110	2	1	1	1
	計	469	98	27	49	643	16	6	3	5
<b>19年度</b>	1年	64	12	5	8	89	2	1	1	1
	2年	70	14	1	8	93	3	1	1	1
	3年	79	6	6	8	99	2	1	1	1
	4年	70	19	7	7	103	2	1	1	1
	5年	82	22	4	9	117	3	1	1	1
	6年	88	18	6	9	121	3	1	1	1
	計	453	91	29	49	622	15	6	3	5
<b>20年度</b>	1年	68	10	4	12	94	3	1	1	1
	2年	64	12	5	8	89	2	1	1	1
	3年	70	14	1	8	93	2	1	1	1
	4年	79	6	6	8	99	2	1	1	1
	5年	70	19	7	7	103	2	1	1	1
	6年	82	22	4	9	117	3	1	1	1
	計	433	83	27	52	595	14	6	4	4
<b>21年度</b>	1年	68	11	1	7	87	3	1	1	1
	2年	68	10	4	12	94	3	1	1	1
	3年	64	12	5	8	89	2	1	1	1
	4年	70	14	1	8	93	2	1	1	1
	5年	79	6	6	8	99	2	1	1	1
	6年	70	19	7	7	103	2	1	1	1
	計	419	72	24	50	565	14	6	3	4
<b>22年度</b>	1年	76	7	2	6	91	3	1	1	1
	2年	68	11	1	7	87	3	1	1	1
	3年	68	10	4	12	94	2	1	1	1
	4年	64	12	5	8	89	2	1	1	1
	5年	70	14	1	8	93	2	1	1	1
	6年	79	6	6	8	99	2	1	1	1
	計	425	60	19	49	553	14	6	3	5
<b>23年度</b>	1年	67	8	3	7	85	3	1	1	1
	2年	76	7	2	6	91	3	1	1	1
	3年	68	11	1	7	87	2	1	1	1
	4年	68	10	4	12	94	2	1	1	1
	5年	64	12	5	8	89	2	1	1	1
	6年	70	14	1	8	93	2	1	1	1
	計	413	62	16	48	539	14	6	3	4
<b>24年度</b>	1年	58	6	3	7	74	2	1	1	1
	2年	67	8	3	7	85	3	1	1	1
	3年	76	7	2	6	91	2	1	1	1
	4年	68	11	1	7	87	2	1	1	1
	5年	68	10	4	12	94	2	1	1	1
	6年	64	12	5	8	89	2	1	1	1
	計	401	54	18	47	520	13	5	3	5

### 三戸町立中学校年度別生徒数・学級数の推計(平成18～24年度)

年度別 生徒数・学級数

年度	学年	生徒数(特殊学級込み)			学級数(特殊学級抜き)	
		三戸中	杉沢中	学年計	三戸中	杉沢中
18	1年	130	6	136	4	1
	2年	119	6	125	3	1
	3年	120	6	126	3	1
	計	369	18	387	10	3
19	1年	107	3	110	4	1
	2年	130	6	136	4	1
	3年	119	6	125	3	1
	計	356	15	371	11	3
20	1年	115	6	121	4	1
	2年	107	3	110	3	1
	3年	130	6	136	4	1
	計	352	15	367	11	3
21	1年	113	4	117	4	1
	2年	115	6	121	3	1
	3年	107	3	110	3	1
	計	335	13	348	10	3
22	1年	96	7	103	3	1
	2年	113	4	117	3	1
	3年	115	6	121	3	1
	計	324	17	341	9	3
23	1年	93	6	99	3	1
	2年	96	7	103	3	1
	3年	113	4	117	3	1
	計	302	17	319	9	3
24	1年	92	1	93	3	1
	2年	93	6	99	3	1
	3年	96	7	103	3	1
	計	281	14	295	9	3

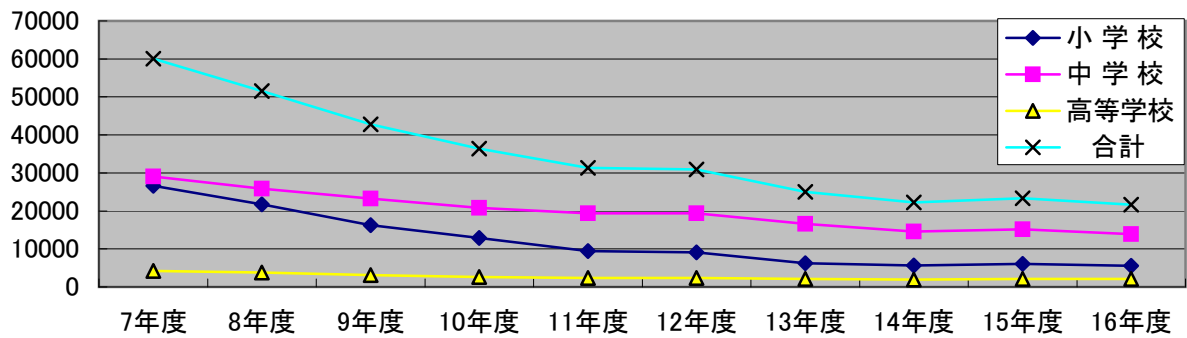
### 学校内における暴力行為発生件数の推移(公立小・中・高)



	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
小学校			1,304	1,528	1,509	1,331	1,465	1,253	1,600	1,890
中学校	5,954	8,169	18,209	22,991	24,246	27,293	25,769	23,199	24,463	23,110
高等学校	2,077	2,406	4,108	5,152	5,300	5,971	5,896	5,002	5,215	5,022
合計	8,031	10,575	23,621	29,671	31,055	34,595	33,130	29,454	31,278	30,022

- (注1) 調査対象:公立小・中・高等学校。  
 (注2) 平成8年度までは「校内暴力」の状況についての調査。  
 (注3) 平成9年度からは調査方法等を改めたため、それ以前との比較はできない。  
 なお、小学校については、平成9年度から調査を行っている。

### いじめの発生件数の推移(公立小・中・高・特殊)



	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
小学校	26,614	21,733	16,294	12,858	9,462	9,114	6,206	5,659	6,051	5,551
中学校	29,069	25,862	23,234	20,801	19,383	19,371	16,635	14,562	15,159	13,915
高等学校	4,184	3,771	3,103	2,576	2,391	2,327	2,119	1,906	2,070	2,121
合計	60,096	51,544	42,790	36,396	31,359	30,918	25,037	22,205	23,351	21,671

- (注1) 調査対象:公立小・中・高・特殊教育諸学校。  
 (注2) 計には、特殊教育諸学校の発生件数を含む。

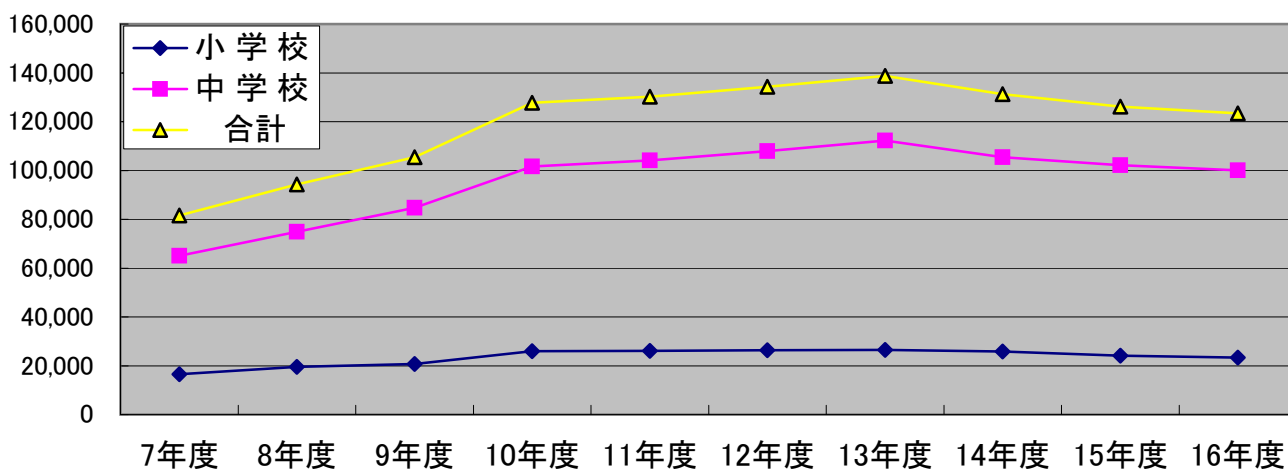
## 三戸町立小中学校における問題行動の件数

(単位:件)

年 度		10	11	12	13	14	15	16	17
暴力行為	小学校	0	0	1	0	0	0	0	0
	中学校	0	48	19	4	6	0	0	0
	小計	0	48	20	4	6	0	0	0
いじめ	小学校	0	5	0	2	1	0	0	0
	中学校	1	16	2	2	1	10	4	0
	小計	1	21	2	4	2	10	4	0

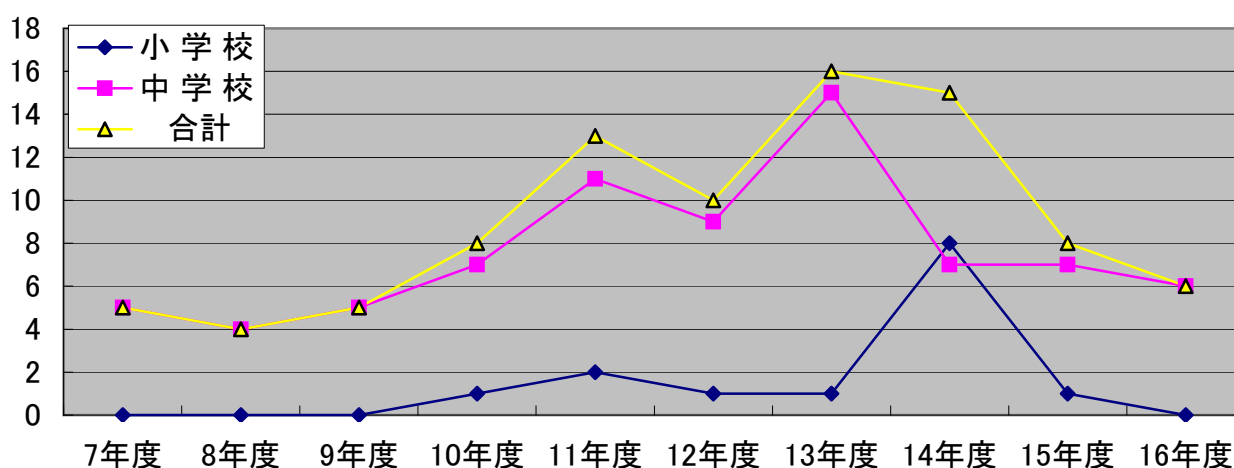
(児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に対する調査より)

### 国・公・私立不登校児童生徒の推移



	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
小学校	16,569	19,498	20,765	26,017	26,047	26,373	26,511	25,869	24,077	23,318
中学校	65,022	74,853	84,701	101,675	104,180	107,913	112,211	105,383	102,149	100,040
合計	81,591	94,351	105,466	127,692	130,227	134,286	138,722	131,252	126,226	123,358

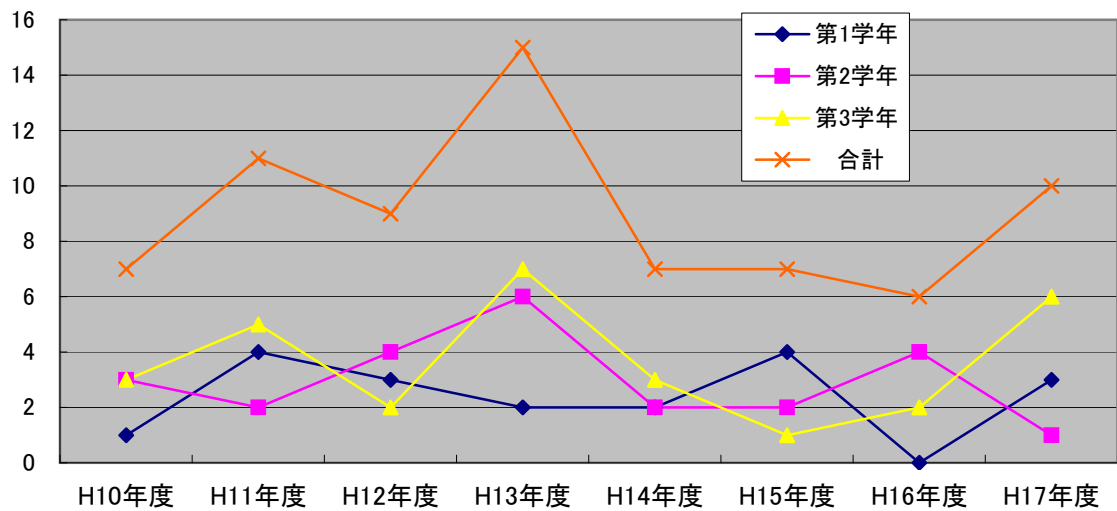
### 三戸町立小中学校における不登校児童生徒の推移



	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
小学校	0	0	0	1	2	1	1	8	1	0
中学校	5	4	5	7	11	9	15	7	7	6
合計	5	4	5	8	13	10	16	15	8	6

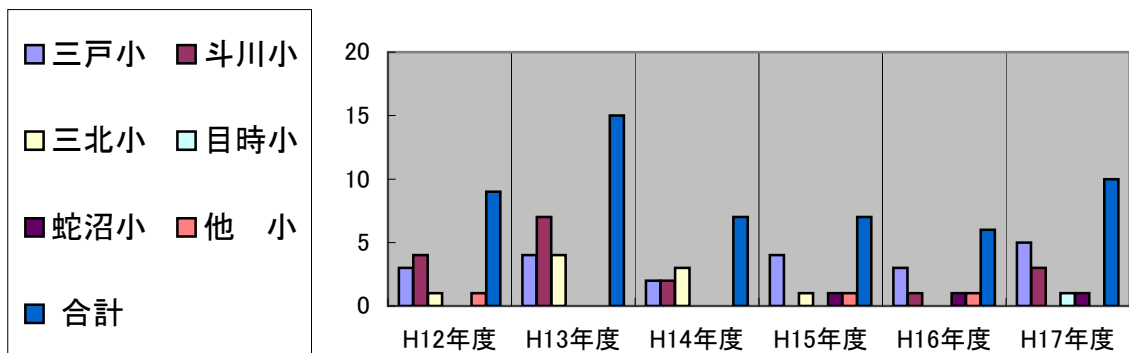


### 三戸中学校における学年別不登校生徒の推移



	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度
第1学年	1	4	3	2	2	4	0	3
第2学年	3	2	4	6	2	2	4	1
第3学年	3	5	2	7	3	1	2	6
合計	7	11	9	15	7	7	6	10

### 三戸中学校における出身校別不登校生徒の推移



区分	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度
三戸小	3	4	2	4	3	5
斗川小	4	7	2	0	1	3
三北小	1	4	3	1	0	0
目時小	0	0	0	0	0	1
蛇沼小	0	0	0	1	1	1
他小	1	0	0	1	1	0
合計	9	15	7	7	6	10

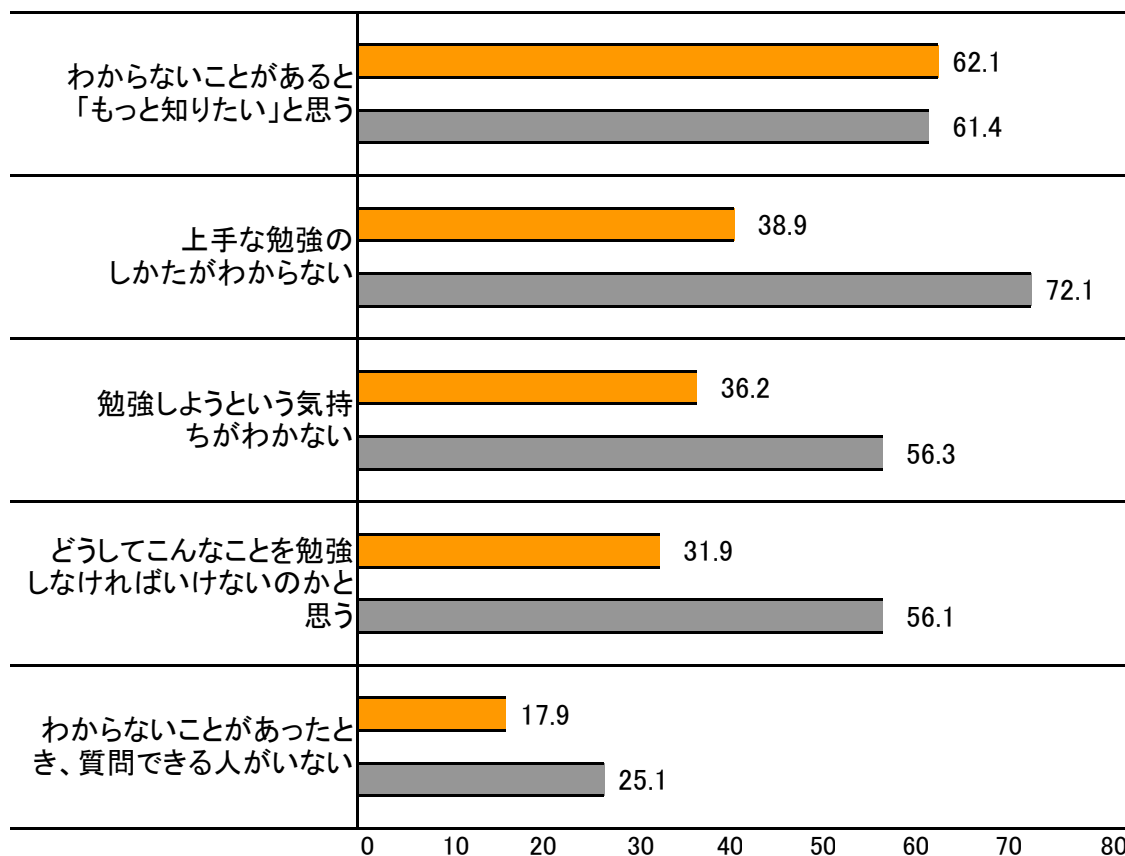
## 三戸町立小中学校児童生徒のNRT(標準学力検査)の状況

科目	学年	平成17年度			平成18年度		
		NRT正答率(%)		全国との差	NRT正答率(%)		全国との差
		三戸町	全国平均		三戸町	全国平均	
国語	小2(小1内容)	76.2	66.8	9.4	72.2	66.8	5.4
	小3(小2内容)	70.9	67.5	3.4	75.4	67.5	7.9
	小4(小3内容)	69.8	64.8	5.0	66.3	64.8	1.5
	小5(小4内容)	62.9	61.1	1.8	66.8	61.1	5.7
	小6(小5内容)	69.9	63.9	6.0	68.5	63.9	4.6
	中1(小6内容)	73.3	65.4	7.9	71.0	65.4	5.6
	中2(中1内容)	64.8	56.7	8.1	64.0	56.7	7.3
	中3(中2内容)	57.4	58.0	▲ 0.6	60.4	58.0	2.4
算数・数学	小2(小1内容)	81.1	75.3	5.8	76.8	75.3	1.5
	小3(小2内容)	83.6	78.3	5.3	86.2	78.3	7.9
	小4(小3内容)	70.1	72.2	▲ 2.1	65.3	72.2	▲ 6.9
	小5(小4内容)	73.1	72.2	0.9	78.3	72.2	6.1
	小6(小5内容)	53.4	51.9	1.5	55.4	51.9	3.5
	中1(小6内容)	63.0	53.0	10.0	57.9	53.0	4.9
	中2(中1内容)	55.5	55.9	▲ 0.4	55.5	55.9	▲ 0.4
	中3(中2内容)	45.6	51.7	▲ 6.1	52.3	51.7	0.6
社会	小4(小3内容)	75.3	72.6	2.7	72.9	72.6	0.3
	小5(小4内容)	71.8	67.6	4.2	73.3	67.6	5.7
	小6(小5内容)	60.1	57.8	2.3	57.2	57.8	▲ 0.6
	中1(小6内容)	64.7	57.7	7.0	62.3	57.7	4.6
	中2(中1内容)	56.8	51.8	5.0	60.9	51.8	9.1
	中3(中2内容)	51.6	56.0	▲ 4.4	55.2	56.0	▲ 0.8
理科	小4(小3内容)	77.3	73.9	3.4	74.8	73.9	0.9
	小5(小4内容)	69.4	65.8	3.6	71.3	65.8	5.5
	小6(小5内容)	76.0	68.4	7.6	71.8	68.4	3.4
	中1(小6内容)	70.0	59.5	10.5	66.9	59.5	7.4
	中2(中1内容)	64.3	60.0	4.3	70.3	60.0	10.3
	中3(中2内容)	61.9	57.6	4.3	59.1	57.6	1.5
英語	中2(中1内容)	59.2	63.4	▲ 4.2	62.8	63.4	▲ 0.6
	中3(中2内容)	56.6	61.0	▲ 4.4	55.4	61.0	▲ 5.6

NRT(Norm Reherenced Test) は、集団基準準拠テストのことを言います。県内全部の小中学校が実施している訳ではありませんがほぼ実施されている状況にあるとされています。目的は、学習の成果を集団内(全国)の相対的位置で明らかにし、学力水準の把握や指導に役立てることが目的となっています。

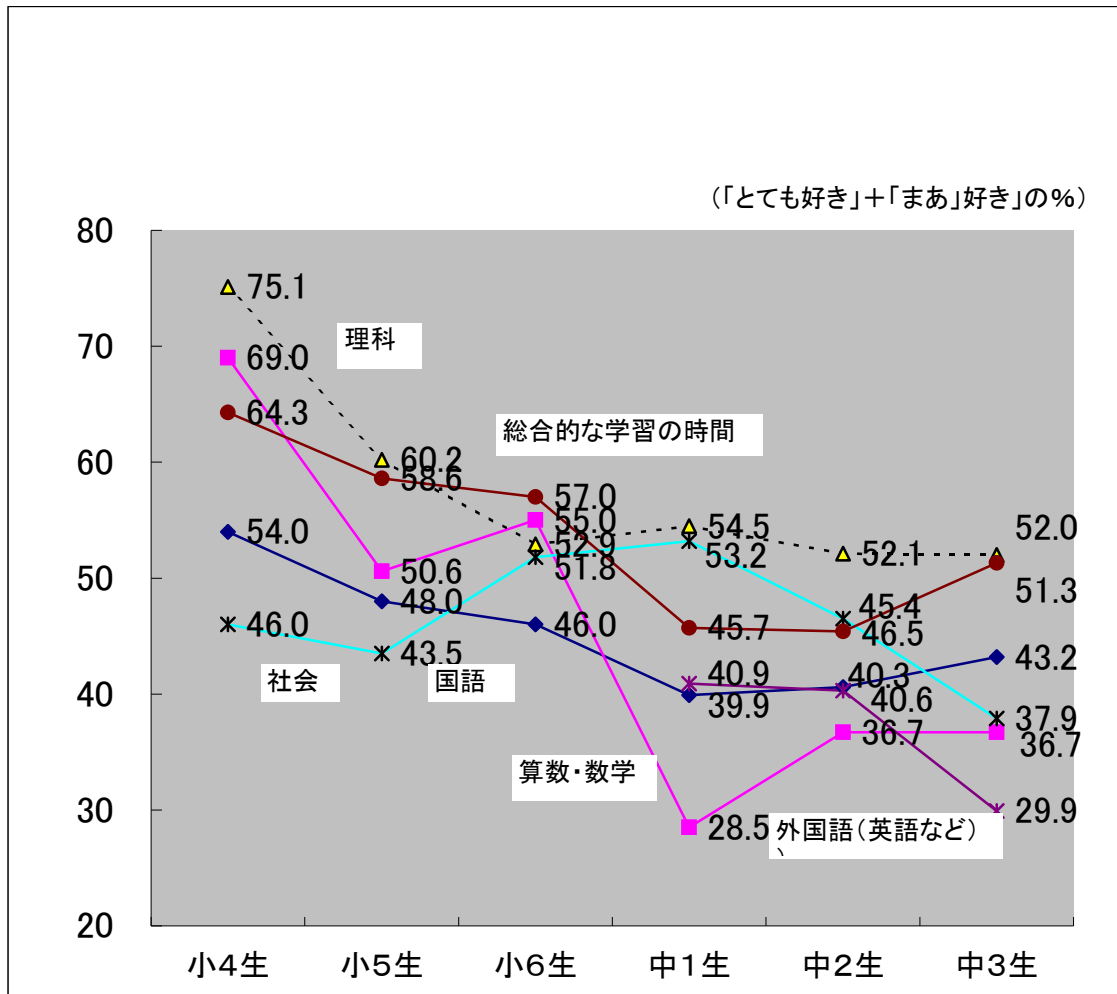
## 小中学生の学習への意識と取り組み方

小学生 中学生 (「とてもそう」+「まあそう」の%)



出展:「第1回こども生活実態基本調査」Benesse教育研究開発センター  
 調査概要 ● 調査対象/小学校4年生～高校2年生14,841名。大都市(東京都内)、中都市、郡部の3地域区分を設定して抽出 ● 調査時期/2004年11～12月 ● 調査方法/学校通しの自記式質問調査

## 教科や活動の時間の好き嫌い

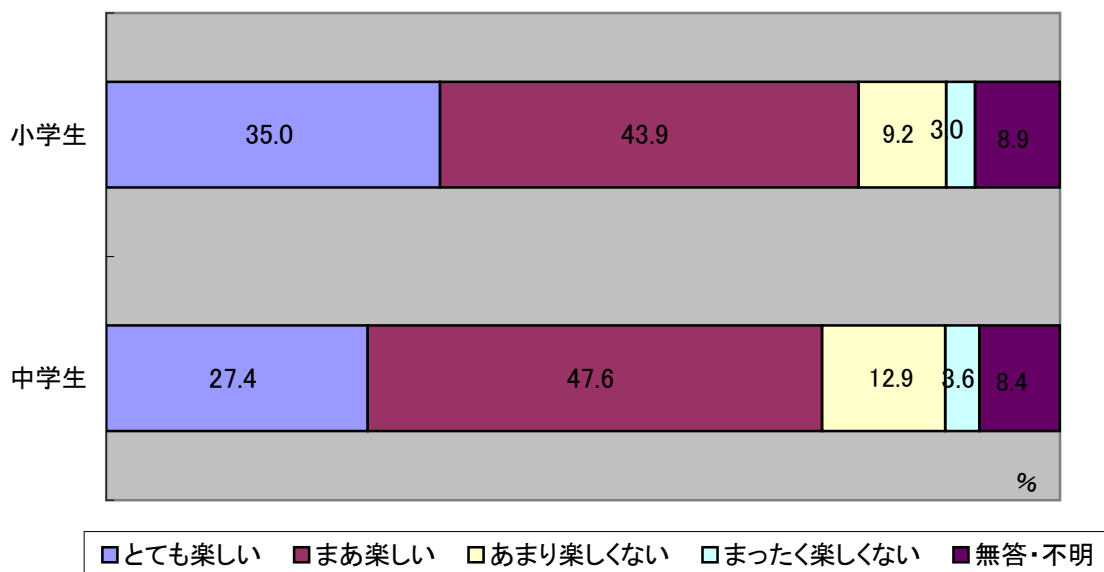


出展:平成16・17年度 文部科学省委嘱調査「義務教育に関する意識調査」Benesse  
教育研究開発センター

調査概要●調査時期/2005年3月 ●調査対象/全国の公立小学校15校に通う児童(小学校4～6年生)および、公立中学校10校に通う生徒(中学1～3年生) ●抽出方法/全国の公立小・中学校の学校リストより無作為抽出 ●調査方法/学校通しの質問紙による自記式調査 ●回収結果/有効回答数 小学生3,350通、中学生2,924通

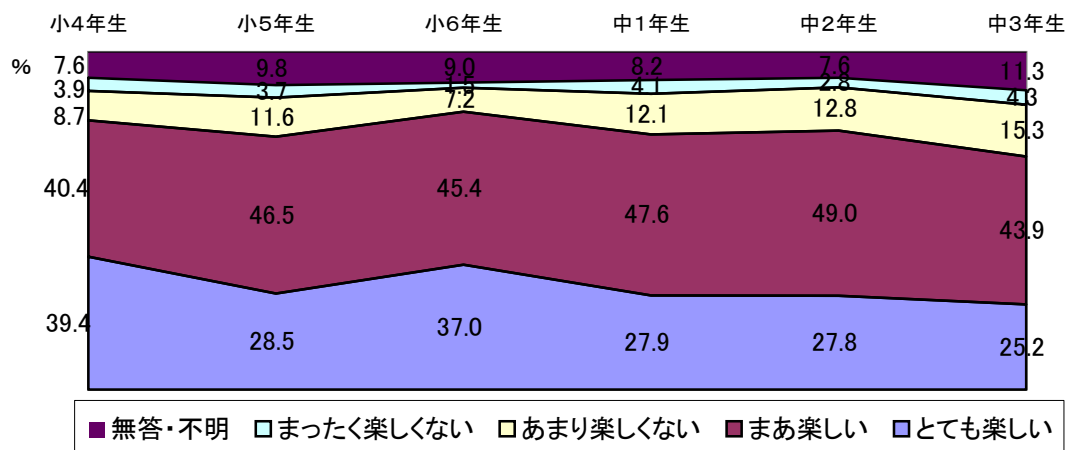
\*「義務教育に関する意識調査」は小学生、中学生、教員、保護者、学校評議員、教育長首長を対象に行われた。

### 学校の楽しさ(学校段階別:全国)



区分	とても楽しい	まあ楽しい	あまり楽しくない	まったく楽しくない	無答・不明
小学生	35.0	43.9	9.2	3.0	8.9
中学生	27.4	47.6	12.9	3.6	8.4

### 学校の楽しさ(学年別:全国)



区分	とても楽しい	まあ楽しい	あまり楽しくない	まったく楽しくない	無答・不明
小4年生	39.4	40.4	8.7	3.9	7.6
小5年生	28.5	46.5	11.6	3.7	9.8
小6年生	37.0	45.4	7.2	1.5	9.0
中1年生	27.9	47.6	12.1	4.1	8.2
中2年生	27.8	49.0	12.8	2.8	7.6
中3年生	25.2	43.9	15.3	4.3	11.3